

令和5年度昭島市立多摩辺中学校
 社会科 年間指導計画、評価標準 [第1学年]

| 学期 | 月 | 時数 | 単元名と内容 | 単元のねらい | 観点別評価標準(主たるもの) | | |
|--------------------|----|--------------------------------|---|---|--|---|---|
| | | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 1 | 4 | 5 | 地理的分野 第1部 世界と日本の地域構成 第1章 世界の姿 | ・緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し理解させる。 ・世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・世界と日本の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそって見られる課題を主体的に追究させる。 | ・緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し理解させる。 ・我が国の国土の位置、世界各地の時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を大観し理解している。 | ・世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。 ・日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそって見られる課題を主体的に追究しようとしている。 |
| | | | 第2章 日本の姿 | ・我が国の国土の位置、世界各地の時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を大観し理解させる。 ・日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・日本の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそって見られる課題を主体的に追究させる。 | ・我が国の国土の位置、世界各地の時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を大観し理解している。 | ・日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・日本の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそって見られる課題を主体的に追究しようとしている。 |
| | 5 | 5 | 第2部 世界のさまざまな地域 第1章 人々の生活と環境 | ・人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解させる。また、世界各地における人々の生活やその姿を基に、世界の人の生活や環境の多様性を理解させる。その際、世界の主な宗教の分布についても理解させる。 ・世界各地における人々の生活の特色やその姿の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・世界各地における人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそって見られる課題を主体的に追究させる。 | ・人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解している。 ・世界各地における人々の生活やその姿を基に、世界の人の生活や環境の多様性を理解している。その際、世界の主な宗教の分布についても理解している。 | ・世界各地における人々の生活の特色やその姿の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・世界各地における人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそって見られる課題を主体的に追究しようとしている。 |
| | | | 第2章 世界の諸地域 第1節 アジア州 | ・他地域との結びつきやアジア州という地域に着目し、人口増加と急激な経済発展を取り上げて、アジア州に暮らす人々に与える影響やそれによって生じる課題を考察させる。 | ・アジア州をいくつかの地域に分けて人口増加と急激な経済発展によるさまざまな影響を整理し、地域ごとの違いをふまながらアジア州全体の地域的特色や課題を理解している。 | ・他地域との結びつきやアジア州という地域に着目し、人口増加と急激な経済発展を取り上げて、アジア州に暮らす人々に与える影響やそれによって生じる課題を多面的・多角的に考察し、表現させる。 | ・人口増加と急激な経済発展を中心に、アジア州に暮らす人々に与える影響やそれによって生じる課題を主体的に追究し解決しようとしている。 |
| | 6 | 7 | 第2節 ヨーロッパ州 | ・他地域との結びつきや地域などに関わる視点に着目し、ヨーロッパ州で見られるEU統合や文化の多様性に関わる課題の要因や影響を、ヨーロッパ州の地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成させる。 | ・ヨーロッパ州に暮らす人々の生活をもとに、ヨーロッパ州の地域的特色を大観し、EU統合や文化の多様性に関わる課題が地域的特色の影響を受けて独自の様相を見せていることを理解する。 | ・他地域との結びつきや地域などに関わる視点に着目し、EU統合や文化の多様性に関わる課題の要因や影響をヨーロッパ州の地域的特色と関連付けて、多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・日本との比較をまじえながら、ヨーロッパ州の人々の生活に関心をもち、地域的特色及びEU統合や文化の多様性に関わる課題を意欲的に追究しようとしている。 |
| | | | 第3節 アフリカ州 | ・他地域との結びつきやアフリカ州という地域に着目し、モノカルチャー・経済からの脱却やアフリカ州の国々の発展や支那の在り方などを取り上げて、アフリカ州に暮らす人々に与える影響やそれによって生じる課題を考察させる。 | ・アフリカ州の人々の生活や産業の特色を歴史的背景をふまえて理解しているとともに、資料からアフリカ諸国とヨーロッパ諸国との関係の深さを調べとめている。 | ・一つの国が輸出品を特定の農産物や鉱産資源にたよるようになった原因を追究し、そのような貿易形態の問題点を多面的・多角的に考察し、解決に向けて選択・判断している。 | ・モノカルチャー・経済やヨーロッパとの関係に着目しながら、アフリカ州の地域的特色に関心を高め、課題の解決を主体的に追究しようとしている。 |
| | | | 第4節 北アメリカ州 | ・他地域との結びつきや北アメリカ州という地域に着目し、アメリカ合衆国を中心とする巨大な産業が発達したことなどを取り上げて、北アメリカ州に暮らす人々に与える影響やそれによって生じる課題を考察させる。 | ・多様な民族が暮らすアメリカ合衆国において、広大な国土を利用して大規模な農業が行われていることや世界をリードし続けている工業の姿について理解しとめている。 | ・北アメリカ州の地域的特色や課題を、そこに暮らす人々の生活のようすをもとに、多面的・多角的に考察している。 | ・世界に大きな影響を与える北アメリカ州の産業や文化について主体的に追究し、課題を解決しようとしている。 |
| | 10 | 3 | 第5節 南アメリカ州 | ・他地域との結びつきや南アメリカ州という地域に着目し、農地や鉱山の開発が地域に与えたことなどを取り上げて、南アメリカ州に暮らす人々に与える影響やそれによって生じる課題を考察させる。 | ・多様な文化を受け入れながら独自の文化を形成してきた歩みと、経済成長をどけた国とそうでない国とが共存する地域の変遷を理解するとともに、ブラジルでは経済発展が進む一方で、経済格差などの問題が生じていることを、本文や資料から調べとめている。 | ・近年の顕著なブラジルの経済成長の要因と、経済成長とともに環境問題が起きていることとを解決を多面的・多角的に考察している。 | ・多民族の共存や近年の経済成長に着目しながら、南アメリカ州の地域的特色と農地や鉱山の開発の地域に対する影響を主体的に追究し、解決しようとしている。 |
| | | | 第6節 オセアニア州 | ・他地域との結びつきやオセアニア州という地域に着目し、白人主義から多文化社会への転換などを取り上げて、オセアニア州に暮らす人々に与える影響やそれによって生じる課題を考察させる。 | ・中学校第1学年の生徒の生活や関心と結びつく地理的事象を取りあげ、オセアニア州の地域的特色を明らかにする主題(テーマ)を追究する学習に、意欲的に取り組もうとする。 | ・オセアニア州の地域的特色を明確にする主題(テーマ)を追究し、わが国との比較や関連をはかりながら、多面的・多角的な思考や判断を行うことができる。 | ・地球儀、地図帳、映像資料などから地理的事象を読み取り、それらの学習成果を踏まえながら、主体的に探究しようとしている。 |
| | | | 第3部 日本 第1章 身近な地域の調査 | ・場所などに着目して、課題を追究し解決したりする活動を通して、観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解させる。また、地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現させる。更に地域調査の手法について、よりよい社会の実現を視野にそって見られる課題を主体的に追究させる。 | ・観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解している。 ・地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技術を身に付けている。 | ・地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・地域調査の手法について、よりよい社会の実現を視野にそって見られる課題を主体的に追究しようとしている。 |
| | | | 第2章 歴史の歩み | ・年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解させる。 ・比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・自らが生きてきた地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、身近な地域の歴史について、よりよい社会の実現を視野にそって見られる課題を主体的に追究しようとする態度を身に付けさせる。 | ・年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解している。 ・資料から歴史に関わる情報を読みとったり、年表などにまとめる技術を身に付けている。 ・具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめることなどの技術を身に付けている。 | ・時期や年代、推移、現在の私たちがのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し、表現している。 ・比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・私たちと歴史について、よりよい社会の実現を視野にそって見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ・自らが生きてきた地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、身近な地域の歴史について、よりよい社会の実現を視野にそって見られる課題を主体的に追究しようとしている。 |
| | 11 | 3 | 第2章 古代までの日本 第1節 世界の古代文明と宗教のおこり | ・世界の古代文明や宗教のおこりに着目し、世界の各地で文明が築かれたことを理解させる。 ・古代文明や宗教が起った場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の古代文明や宗教のおこりに着目して多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・古代文明と宗教のおこりに着目して、そこと見られる課題を主体的に追究しようとする態度を身に付けさせる。 | ・世界の古代文明や宗教のおこりに着目し、世界の各地で文明が築かれたことを理解している。 | ・古代文明や宗教が起った場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の古代文明や宗教のおこりに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・古代文明や宗教のおこりに着目して、そこと見られる課題を主体的に追究しようとする態度を身に付けさせる。 |
| 第2節 日本列島の誕生と大陸との交流 | | | ・日本列島における農耕の広まりと、生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷(政権)による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解させる。 ・東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本列島における国家形成について、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・日本列島の誕生と大陸との交流について、そこと見られる課題を主体的に追究しようとする態度を身に付けさせる。 | ・日本列島における農耕の広まりと、生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷(政権)による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解している。 | ・東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本列島における国家形成について、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・日本列島の誕生と大陸との交流について、そこと見られる課題を主体的に追究しようとしている。 | |
| 12 | 6 | 第2部 世界のさまざまな地域 第1章 人々の生活と環境 | ・人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解させる。また、世界各地における人々の生活やその姿を基に、世界の人の生活や環境の多様性を理解させる。その際、世界の主な宗教の分布についても理解させる。 ・世界各地における人々の生活の特色やその姿の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・世界各地における人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそって見られる課題を主体的に追究させる。 | ・人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解している。 ・世界各地における人々の生活やその姿を基に、世界の人の生活や環境の多様性を理解している。その際、世界の主な宗教の分布についても理解している。 | ・世界各地における人々の生活の特色やその姿の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・世界各地における人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそって見られる課題を主体的に追究しようとしている。 | |
| | | 第2章 世界の諸地域 第1節 アジア州 | ・他地域との結びつきやアジア州という地域に着目し、人口増加と急激な経済発展を取り上げて、アジア州に暮らす人々に与える影響やそれによって生じる課題を考察させる。 | ・アジア州をいくつかの地域に分けて人口増加と急激な経済発展によるさまざまな影響を整理し、地域ごとの違いをふまながらアジア州全体の地域的特色や課題を理解している。 | ・他地域との結びつきやアジア州という地域に着目し、人口増加と急激な経済発展を取り上げて、アジア州に暮らす人々に与える影響やそれによって生じる課題を多面的・多角的に考察し、表現させる。 | ・人口増加と急激な経済発展を中心に、アジア州に暮らす人々に与える影響やそれによって生じる課題を主体的に追究し解決しようとしている。 | |

| | | | | | | | | |
|------|---|--|--|--|--|---|---|--|
| 3 | 2 | 第3節 古代国家の歩みと東アジア世界 | ・律令国家の確立に至るまでの過程、拱関政治などを基に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解させる。 ・仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解させる。 | ・律令国家の確立に至るまでの過程、拱関政治などを基に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解する。 | ・東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、律令国家の形成、古代の文化と東アジアとの関わりについて、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・律令国家の確立や拱関政治について、ここで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 | | |
| | | 1 | 第3章 中世の日本 第1節 武士の政権と成立 | ・鎌倉幕府の成立などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広がったことを理解させる。 ・武士の政治への進出と展開などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立とユーラシアの交流について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。 | ・鎌倉幕府の成立などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広がったことを理解している。 | ・武士の政治への進出と展開などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立とユーラシアの交流について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・武士の政権と成立について、ここで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 | |
| | 2 | 6 | 第2節 ユーラシアの動きと武士の政治の展開 | ・元寇(モンゴル帝国の襲来)などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広がったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解させる。 ・武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・ユーラシアの動きと武士の政治の展開について、課題を主体的に追究しようとする態度を身に付けさせる。 | ・元寇(モンゴル帝国の襲来)などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広がったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。 ・南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。 | ・武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立とユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・ユーラシアの動きと武士の政治の展開について、ここで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 | |
| | | 4 | 第4章 近世の日本 第1節 ヨーロッパ人との出会いと全国統一 | ・ヨーロッパ人來航の背景とその影響、織田・豊臣の統一事業とその当時の対外関係、武將や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎が作られたことを理解させる。 ・交易の広がりとその影響に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・ヨーロッパ人との出会いと全国統一について、ここで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。 | ・ヨーロッパ人來航の背景とその影響、織田・豊臣の統一事業とその当時の対外関係、武將や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎が作られたことを理解している。 | ・交易の広がりとその影響に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・ヨーロッパ人との出会いと全国統一について、ここで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 | |
| | 3 | 3 | 3 | 第2節 江戸幕府の成立と対外政策 | ・江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解させる。 ・統一政権の諸政策の目的に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。 | ・江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。 | ・統一政権の諸政策の目的に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・江戸幕府の成立と対外政策について、ここで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 |
| | | | 105 | 評価の方法 | ・定期考査 ・小テスト ・ワークシート | ・定期考査 ・小テスト ・ワークシート ・レポート | ・ワークシート ・レポート | |
| 評価基準 | | 1. 上記の評価規程、評価方法に基づき各観点別に A:十分満足できる…到達度80%以上 B:おおむね満足できる…到達度50%以上～80%未満 C:努力を要する…到達度50%未満 で評価する 2. 観点別評価から評定への総括…各観点の実現状況(到達度)を総括し、下記の要領で5段階評価する 90%以上の到達度…5 80%以上～90%未満の到達度…4 50%以上～80%未満の到達度…3 20%以上～50%未満の到達度…2 20%未満の到達度…1 | | | | | | |

令和5年度昭島市立多摩中学校
社会科 年間指導計画、評価規準 [第2学年]

| 学期 | 月 | 時数 | 単元名と内容 | 単元のねらい | 観点別評価規準(主たるもの) | | |
|----------------------------------|-----|----|---|---|---|---|---------------|
| | | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 1 | 4 | 14 | 第3節 日本のさまざまな地域 第2章 日本の地域的特色 | 「自然環境」「人口」「資源」「エネルギー」と産業「交通・通信」の項目を取り上げ、分布や地域などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれる日本の国土の特徴、自然災害と防災への取組などを基に、日本の自然環境に関する特色を理解している。 | 「自然環境」「人口」「資源」「エネルギー」と産業「交通・通信」の項目について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 | 日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 | |
| | | | 第3章 日本の諸地域 第1節 九州地方 | ・地域と結びつきや地域などに関わる視点に着目して、九州地方の特色ある地理的事象を他の事象と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成させる。 | ・自然環境に注目しながら、九州地方に暮らす人々の生活と産業との関係について多面的・多角的に考察している。 | ・九州地方の自然環境と生活、産業との関係について関心をもち、九州地方の特色を主体的に追究しようとしている。 | |
| | | | 第2節 中国・四国地方 | ・地域と結びつきや地域などに関わる視点に着目して、中国・四国地方の特色ある地理的事象を他の事象と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成させる。 | ・地域と結びつきや産業の関係を、人や物の移動の量や方向から多面的・多角的に考察している。 | ・中国・四国地方の歴史や地形、他地域との結びつきに関心をもち、それを主体的に追究している。 | |
| | 6 | 6 | 第3節 近畿地方 | ・地域と結びつきや地域などに関わる視点に着目して、近畿地方の特色ある地理的事象を他の事象と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成させる。 | ・自然環境や歴史的景観の保全に注目しながら、そこに住む人々の生活や産業の変化などとの関係について、原因と対策、目的の面から多面的・多角的に考察している。 | ・自然環境や歴史的景観の保全の視点からみた近畿地方の地域的特色に関心をもち、自然環境や人々の生活、産業などに関連させながら、主体的に追究している。 | |
| | | | 第4節 中部地方 | ・地域と結びつきや地域などに関わる視点に着目して、中部地方の特色ある地理的事象を他の事象と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成させる。 | ・さまざまな資料を活用して、中部地方の三つの地域の産業の特色と変化を捉え取り、その地形や自然環境などに異なる産業が発達したことを理解している。 | ・産業の視点からみた中部地方の特色に関心をもち、自然環境や人々の生活と関連させながら、主体的に追究している。 | |
| | 7 | 6 | 第5節 関東地方 | ・地域と結びつきや地域などに関わる視点に着目して、関東地方の特色ある地理的事象を他の事象と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成させる。 | ・関東地方における人口の集中が成立する条件を、地域の広がりや他地域との結びつき、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・地域の広がりや他地域との結びつき、人々の対応などに着目しながら、関東地方に暮らす人々の生活に監視をもち、地域的特色や地域の課題を意図的に追究しようとしている。 | |
| | | | 第6節 東北地方 | ・地域と結びつきや地域などに関わる視点に着目して、東北地方の特色ある地理的事象を他の事象と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成させる。 | ・東日本地方の産業の発達を写真や地図・グラフなどを活用してとらえ、人々の生活の変化と、それとどう向き合い、東北地方の産業の課題を多面的・多角的に考察している。 | ・東北地方を伝統的な祭りや工芸品、町なみの特色など生活・文化の視点から、関心をもち主体的に追究している。 | |
| | 8 | 6 | 第7節 北海道地方 | ・地域と結びつきや地域などに関わる視点に着目して、北海道地方の特色ある地理的事象を他の事象と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成させる。 | ・東日本地方の産業の発達を写真や地図・グラフなどを活用してとらえ、人々の生活の変化と、それとどう向き合い、東北地方の産業の課題を多面的・多角的に考察している。 | ・自然環境に注目した視点から、自然環境・産業や都市の発展と変化などに関心をもち、北海道地方の特色を主体的に追究している。 | |
| | | | 第4節 地域の在り方 | ・地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解させる。 ・地域の在り方を、地域の結びつきや地域の姿容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。 ・地域の在り方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決させる。 | ・地域の実態や課題解決のための取組を理解している。 ・地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解している。 | ・地域の在り方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 | |
| | 2 | 7 | 3節 産業の発達と幕府政治の動き | ・産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりを基に、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生み出されたことを理解させる。 ・社会の流動や幕府政治の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動向などを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりを見せたことを理解させる。 ・産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。 | ・産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりを基に、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生み出されたことを理解している。 ・社会の流動や幕府政治の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動向などを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりを見せたことを理解している。 | ・産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けている。 ・近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 | |
| 5章 開国と近代日本の歩み 1節 欧米における近代化の進展 | | | ・欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解させる。 ・工業化の進展と政治や社会の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動きを多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・欧米における近代化の進展について、そこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を身に付けさせる。 | ・欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。 | ・工業化の進展と政治や社会の変化などに着目して、事象を相互に関連付けている。 ・欧米における近代化の進展について、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 | | |
| 12 | 1 | 6 | 2節 欧米の進出と日本の開国 | ・開国とその影響などを基に、幕府が対外政策を転換したことと、それが国内の大きな変化につながったことを理解させる。 ・欧米の進出と開国などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本における開国とその影響を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・開国とその影響について、そこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を身に付けさせる。 | ・開国とその影響などを基に、幕府が対外政策を転換したことと、それが国内の大きな変化につながったことを理解している。 | ・開国とその影響について、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 | |
| | | | 5章 開国と近代日本の歩み 1節 欧米の進出と日本の開国 | ・開国とその影響などを基に、幕府が対外政策を転換したことと、それが国内の大きな変化につながったことを理解させる。 ・欧米の進出と開国などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本における開国とその影響を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・開国とその影響について、そこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を身に付けさせる。 | ・開国とその影響などを基に、幕府が対外政策を転換したことと、それが国内の大きな変化につながったことを理解している。 | ・開国とその影響について、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 | |
| 3 | 2 | 9 | 2節 明治維新 | ・富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解させる。 ・自由民権運動、大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲制の国家が成立して、日本の国際的地位が向上したことを理解させる。 ・明治維新の諸改革の目的、議会政治や外交の展開などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、明治維新と近代国家の形成、議会政治の始まりと国際社会との関わりについて、そこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を身に付けさせる。 | ・富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解している。 | ・明治維新と近代国家の形成、議会政治の始まりと国際社会との関わりについて、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 | |
| | | | 3節 日清・日露戦争と近代産業 | ・日清・日露戦争、条約改正などを基に、我が国の国際的地位が向上したことを理解させる。 ・我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解させる。 ・外交の展開、近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成について近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・日清・日露戦争と近代産業について、そこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を身に付けさせる。 | ・日清・日露戦争、条約改正などを基に、我が国の国際的地位が向上したことを理解している。 ・我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解している。 | ・外交の展開、近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連付けている。 ・国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成について近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 | |
| 合計 | 105 | | 評価の方法 | 提出物・レポート・定期調査等 | 定期調査・レポート・小テスト等 | 定期調査・レポート・小テスト等 | |
| 評価規準 | | | | <p>1. 上記の評価規準、評価方法に基づき各観点別に A:十分満足できる…到達度80%以上 B:おおむね満足できる…到達度50%以上～80%未満 C:努力を要する…到達度50%未満 で評価する</p> <p>2. 観点別評価から評定への総括…各観点の実現状況(到達度)を総括し、下記の表欄で5段階評価する</p> <p>90%以上の到達度…5 80%以上～90%未満の到達度…4 50%以上～80%未満の到達度…3 20%以上～50%未満の到達度…2 20%未満の到達度…1</p> | | | |

令和5年度昭島市立多摩庭中学校
社会科 年間指導計画、評価規準 [第3学年]

| 学期 | 月 | 時数 | 単元名と内容 | 単元のねらい | 観点別評価規準(主たるもの) | | |
|----|---|--------------|---|---|--|---|--|
| | | | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 1 | 4 | 4 | 【歴史】第6章 二度の世界大戦と日本 1節 第一次世界大戦と日本 | ・第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協力の動きなどを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢と、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解させる。 ・戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・第一次世界大戦前後の国際情勢について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。 | ・第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協力の動きなどを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢と、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解している。 | 戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・第一次世界大戦前後の国際情勢について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 |
| | | | 2節 大正デモクラシーの時代 | ・我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きを理解させる。 ・世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。 | ・我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きを理解している。 | 世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 |
| | | | 3節 世界恐慌と日本の中国侵略 | ・経済的世界的な混乱と社会的問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる。 ・経済的世界的な混乱と社会的問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解している。 | ・経済的世界的な混乱と社会的問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解している。 | 経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢、人類への惨禍について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・第一次世界大戦前後の国際情勢、人類への惨禍について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 |
| | 4 | 4 | 4節 第二次世界大戦と日本 | ・昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる。 ・戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第二次世界大戦と人類への惨禍について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・第二次世界大戦と人類への惨禍について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決させる。 | ・昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解している。 | 戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第二次世界大戦と人類への惨禍について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・第二次世界大戦と人類への惨禍について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 |
| | | | 第7章 現代の日本と世界 1節 戦後日本の出発 | ・我が国の民主化と再建の過程などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や、世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解させる。 ・諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の民主化について、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。 日本の民主化について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。 | ・我が国の民主化と再建の過程などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や、世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解している。 | 諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の民主化について、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・日本の民主化について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 |
| | | | 2節 冷戦と日本の発展 | ・冷戦、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解させる。 ・高度経済成長、国際社会との関わりなどを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解させる。 ・諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、冷戦下の国際社会、日本の経済の発展について、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。 冷戦下の国際社会、日本の経済の発展について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。 | ・冷戦、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解している。 ・高度経済成長、国際社会との関わりなどを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解している。 | 諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、冷戦下の国際社会、日本の経済の発展について、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・冷戦下の国際社会、日本の経済の発展について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 |
| | 5 | 3 | 3節 新たな時代の日本と世界 | ・国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解させる。 ・国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の経済の発展とグローバル化する世界について、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。 日本の経済の発展とグローバル化する世界について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。 | ・国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解している。 | 国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の経済の発展とグローバル化する世界について、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・日本の経済の発展とグローバル化する世界について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 |
| | | | 【公民】第1章 現代社会と私たち 1節 現代社会の特色と私たち | ・現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などが見られることについて理解させる。 ・位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・私たちが生きる現代社会について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとさせる。 | ・現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などが見られることについて理解している。 | 位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・私たちが生きる現代社会について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。 |
| | | | 2節 私たちの生活と文化 | ・現代社会における文化の意義や影響について理解させる。 ・位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現させる。 文化の特色について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとさせる。 | ・現代社会における文化の意義や影響について理解している。 | 位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・文化の特色について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。 |
| | 6 | 5 | 3節 現代社会の見方や考え方 | ・現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解させる。 ・人間は本来社会的存在であることに基づき、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について理解させる。 ・対立と合意、効率と公正などに着目して、社会生活における物事の決定の仕方、契約を通した個人と社会との関係、決まりの役割について多面的・多角的に考察し、表現させる。 現代社会を捉える枠組みについて、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとさせる。 | ・現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解している。 ・人間は本来社会的存在であることに基づき、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について理解している。 | 対立と合意、効率と公正などに着目して、社会生活における物事の決定の仕方、契約を通した個人と社会との関係、決まりの役割について多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・現代社会を捉える枠組みについて、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。 |
| | | | 第2章 個人の尊重と日本国憲法 1節 人権と日本国憲法 | ・人権思想の歴史など歴史的分野の学習内容を踏まえて、日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本原則としていることについて理解させる。 ・日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に關する行為について理解させる。 ・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配などに着目して、対話的な活動を通じ日本国憲法が大切にされた理由について、多面的・多角的に考察、表現させる。 日本国憲法が大切にされた理由について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとさせる。 | ・人権思想の歴史など歴史的分野の学習内容を踏まえて、日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本原則としていることについて理解している。 ・日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に關する行為について理解している。 | 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配などに着目して、対話的な活動を通じ日本国憲法が大切にされた理由について、多面的・多角的に考察、表現している。 | ・日本国憲法が大切にされた理由について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。 |
| | | | 2節 人権と共生社会 | ・人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解させる。 ・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配などに着目して、日本国憲法において、人権保障が大切にされている理由について、対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、表現させる。 人権保障が大切にされている理由について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとさせる。 | ・人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。 | 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配などに着目して、日本国憲法において、人権保障が大切にされている理由について、対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、表現している。 | ・人権保障が大切にされている理由について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。 |
| 8 | 7 | 3節 これからの人権保障 | ・社会の変化に伴って人権の考え方が変化していく中でも、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解させる。 ・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配などに着目して、社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由について、対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、表現させる。 社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとさせる。 | ・社会の変化に伴って人権の考え方が変化していく中でも、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解している。 | 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配などに着目して、社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由について、対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、表現している。 | ・社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。 | |

| | | | | | | | |
|------|---|----------------|---|---|---|---|---|
| 2 | 7 | 第3章 現代の民主政治と社会 | <ul style="list-style-type: none"> ・議会議決主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解させる。 ・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。 民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・議会議決主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。 | |
| | | 1節 現代の民主政治 | | | | | |
| | 10 | 2節 国の政治の仕組み | <ul style="list-style-type: none"> ・国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解させる。 ・国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解させる。 ・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。 民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解している。 ・国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。 | |
| | 7 | 3節 地方自治と私たち | <ul style="list-style-type: none"> ・地方自治の基本的な考え方について理解させる。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利と義務について理解させる。 ・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。 民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利と義務について理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。 | |
| | 11 | 7 | 第4章 私たちの暮らしと経済と市場経済 | <ul style="list-style-type: none"> ・事例や統計資料などを収集・選択し、読み取る学習を通して、身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解させる。 ・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目し、消費生活や流通に関する様々な事例を基に、個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現させる。 身近な事例の提示や、シミュレーションなどの活動を通して、市場の動きと経済について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事例や統計資料などを収集・選択し、読み取る学習を通して、身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目し、消費生活や流通に関する様々な事例を基に、個人や企業の経済活動における役割と責任について現代社会の生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・身近な事例の提示や、シミュレーションなどの活動を通して、市場の動きと経済について理解。現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。 |
| | 5 | 2節 生産と労働 | <ul style="list-style-type: none"> ・現代の生産などの仕組みや働き、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神について理解させる。 ・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現させる。 市場の動きと経済について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・現代の生産などの仕組みや働き、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神について理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について現代社会の生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・市場の動きと経済について理解し、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。 | |
| | 12 | 7 | 3節 市場経済の仕組みと金融 | <ul style="list-style-type: none"> ・市場経済の基本的な考え方について理解させる。その際、市場における価格の決まり方や資源の配分について理解させる。 ・現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させる。 ・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目し、個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現させる。 市場の動きと経済について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・市場経済の基本的な考え方について理解している。その際、市場における価格の決まり方や資源の配分について理解している。 ・現代の金融などの仕組みや働きを理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目し、個人や企業の経済活動における役割と責任について現代社会の生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・市場の動きと経済について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。 |
| | 1 | 5 | 4節 財政と国民の福祉 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会資本の整備、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解させる。 ・財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解させる。 ・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目し、市場の動きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。 ・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目し、市場の動きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現させる。 国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会資本の整備、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解している。 ・財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目し、市場の動きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現している。 ○対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目し、財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。 |
| | 4 | 5節 これからの経済と社会 | <ul style="list-style-type: none"> ・公害の防止など環境の保全について、その意義を理解させる。 ・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目し、市場の動きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。 国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・公害の防止など環境の保全について、その意義を理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目し、市場の動きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。 | |
| | 3 | 2 | 第5章 地球社会と私たち | <ul style="list-style-type: none"> 1節 国際社会の仕組み ・世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協力の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解させる。その際、領土(領海、領空を含む。)、国家主権、国際連合の働きなど基本的な事項について理解させる。 ・対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目し、日本国憲法の平和主義を基に、我が国の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。 世界平和と人類の福祉の増大について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協力の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解している。 ・領土(領海、領空を含む。)、国家主権、国際連合の働きなど基本的な事項について理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目し、日本国憲法の平和主義を基に、我が国の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・世界平和と人類の福祉の増大について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。 |
| | 2 | 2節 きまざまな国際問題 | <ul style="list-style-type: none"> ・地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解させる。 ・対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目し、日本国憲法の平和主義を基に、我が国の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。 世界平和と人類の福祉の増大について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目し、日本国憲法の平和主義を基に、我が国の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・世界平和と人類の福祉の増大について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。 | |
| | 3 | 4 | 3節 これからの地球社会と日本 | <ul style="list-style-type: none"> ・世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協力の観点から、各国の相互理解と協力が大切であることを理解させる。 ・対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目し、日本国憲法の平和主義を基に、我が国の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。 世界平和と人類の福祉の増大について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協力の観点から、各国の相互理解と協力が大切であることを理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目し、日本国憲法の平和主義を基に、我が国の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・世界平和と人類の福祉の増大について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。 |
| 4 | 3 | 4 | 終章 より良い社会を目指して | <ul style="list-style-type: none"> ・社会的な見方・考え方を働かせ、私たちがより良い社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述させる。 私たちがより良い社会を築いていくために解決すべき課題について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く学習に取り組み、主体的に社会に関わろうとさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会の考え方について、これまでの公民的分野での学習を踏まえて、理解を深めている。 ・環境・エネルギー、人権・平和、伝統・文化、防災・安全、情報・技術などに関わる課題を解決することが、持続可能な社会の形成に必要であることを理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 社会的な見方・考え方を働かせ、私たちがより良い社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・私たちがより良い社会を築いていくために解決すべき課題について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く学習に取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。 |
| 合計 | 140 | | 評価の方法 | ・定期考査 ・小テスト ・ワークシート | ・定期考査 ・小テスト ・ワークシート ・レポート | ・ワークシート ・レポート | |
| 評価基準 | 1. 上記の評価規準、評価方法に基づき各観点別に A:十分満足できる…到達度80%以上 B:おおむね満足できる…到達度50%以上～80%未満 C:努力を要する…到達度50%未満 で評価する | | | 2. 観点別評価から評定後の総括…各観点の実現状況(到達度)を総括し、下記の要領で5段階評価する 90%以上の到達度…5 80%以上～90%未満の到達度…4 50%以上～80%未満の到達度…3 20%以上～50%未満の到達度…2 20%未満の到達度…1 | | | |